

☆☆「読書感想文」のコツ！教えます☆☆

「本を読むことは好きだけど、感想文は何をどう書いたらいいのか、わからないから苦手・・・」「どんな本を読んだらいいのか、わからない・・・」などなど、夏休みの「読書感想文」という課題を前にして、悩んでいる人も多いと思います。しかも原稿用紙5枚だなんて想像しただけで、先が見えない戦いを思い浮かべる人もいるでしょう。

そこで、苦手意識を捨て、楽しく感想文に取り組めるよう「読書感想文」の書き方のコツをまとめてみました。ぜひ参考にしてください。

Point 1：楽しんで読書感想文を書こう！



★「読書感想文」に取り組む時、「やらされている感」は捨てよう！

読書感想文とは、本を読んで自分が感じて、思ったことを文章にするものです。本を読んで、自分に起こる変化を前向きに楽しみましょう。

★上手に書こうとしない！

「人に見られるから・・・」「審査されるから・・・」と褒められるようなものを書こうとしないでいいんです。恰好つけた言葉を使ったりせず、ありのままの自分の「今の姿」を書いてみましょう。感想文に「正解」はありません！

★本を読む前から「この本のことを人に伝えよう！」と意識して読む！

例えば昨日見たテレビの感想を友だちにうまく伝えられて、面白さを共有できたとき、なんだかすっきりとしたいい気持ちになりますよね。人に楽しく話せるような本は感想文も書ける本です。感想を人に伝えることを意識して読んでみましょう。

Point 2：自分の心にグッときた言葉を拾い出す！



★グッときた言葉を拾い出そう！

どういう言葉や場面にグッときたのか、自分自身の経験とエピソードを加えて感想文に個性をだしましょう。

★自分に引き寄せて読んでみよう！

「自分だったら・・・」と本の内容と自分自身を照らし合わせて読んでみましょう。自分を本の内容と関わらせて読み進めると、感じ方が深くなり印象に残ります。

Point 3：主張したいことを決めよう！

★書きたいことをメモしよう！

書きたいこと・伝えたいことがたくさんあると内容がぶれてきてしまいます。話がぶれないようにするために主張したいことは3つにしぼりましょう。読みながら本に付せんを貼ったり、メモをとりながら読むと、まとめるときに便利です。

最後に... 気をつけること！

★文体を統一させましょう！

文体には「です・ます」体と「だ・である」体があります。「です・ます」体には優しく、やわらかな印象があります。丁寧に感じる反面、気をつけないとダラダラとした印象になりやすいので注意しましょう。一方「だ・である」体はピリッと引き締まってテンポもよく、大人っぽい感じがします。しかし、かたい印象を与えやすいです。どちらの文体で書いても構いませんが、ごちゃ混ぜにならないように文体は統一させましょう。



～みんなの質問に答えます～ 読書感想文 Q&A



・・・Q どんな本を選んだらいいのかわからない！・・・

- A. 左に書いた通り「自分に引き寄せられる」本が書きやすいでしょう。たとえば「主人公が自分と似ている(年齢が近い)」「身近な問題が書かれている」「最近、興味がある内容」といったものを選ぶと共感しやすいので、自分のエピソードを交えて展開できると思います。

★図書館では「青春」・「人権」・「生き方」・「平和」など、キーワードを表示して感想文向けの本を展示しています。選ぶ際の参考にしてみてください。

・・・Q 何をどう書いたらいいのかわからない！・・・

- A. まず、何でもいから書き出してみることが大切です。書き出しのポイントは・・・
- ・本を読んだ動機(この本のここが気になって手に取ってみた・・・等)
 - ・「〇〇！」その言葉がずっと僕の心の中に残っていた。など、引用から。(注意！引用を使うときは「」(カギかっこ)をつけて「引用」とわかるようにしましょう)

・・・Q 1枚以上なんて書けない！！・・・

- A. 読んで思いついたことをとりあえず書き、下書きをしてみましょう。それをいくつかのエピソードごとにまとめ、あとで構成すると案外用紙が埋まるものです。

<内容をふくらませるポイント>

- ・自分の体験を語る。(本をきっかけに思い出した自分の体験)
(注意！あまり本から脱線すると「感想文」ではなく、ただの「作文」になってしまいます。あくまで「本とあなた」が中心で！)
- ・なぜ、そう思ったのかを掘り下げる。
(どの場面に感動したのか、その場面に感動したのは何故なのか、心を動かされた結果、自分の考えがどう変わったのか、など)



★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★
本を読んで感じたことや自分の考えをまとめることは、難しいことだと思います。でも、考えすぎずに、自分が思ったことを、素直に自分の言葉で書けばそれがあなたの感想文になるのです。夏休み、じっくり自分の心と対話しながら、取り組んでみてくださいね。

★誤字・脱字がないか、確認しましょう！

★主語と述語がきちんと対応しているか、確認しましょう！

一文をダラダラ長くしてしまうと、主語と述語の関係がねじれて意味不明な文章になってしまうことがあります。言いたいことを整理してすっきりさせましょう。

★自分の書いた感想文を声に出して読んでみましょう！

声に出して読むことで、読点(テン)を打つ場所がわかります。読みながら書くと、文章のリズムもよくなります。

参考：齊藤孝『だれでも書ける最高の読書感想文』